学校だより
冬休み号
三中HP
アクセス
QRコード

それゆけ三中

令和３年１２月２４日
足利市立第三中学校
生徒数：１９０名
発行者：髙木秀和

教育目標：より確かに・より豊かに・より逞しく

本日、第２学期が無事に終了しました。コロナ禍の中で授業や行事の変更など、生徒の負担感や不安も少なからずあったことと思いますが、ご家庭、地域のご支援を受け、With コロナ（コロナと共に）の見地に立って、教育活動を進められました。年末を迎え、改めて御礼申し上げます。令和３年、大変お世話になりました。ありがとうございました。来年も、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。さて、この冬休みは、学校閉庁と年末年始のお休みを入れると、明日から、1月５日までは学校のすべての活動が休止状態になります。学校と全くかかわらない15日間、部活動がなければ、17日間、自分の時間をかなり持てる期間になると思います。年末年始でお家の手伝いや、大掃除などもあると思います。生徒の皆さんには、暮れゆく年に感謝し、この休みは家族と自分のために過ごしてほしいと思います。

人権週間　１２月3日（金）～9日（木）　人権作文発表

[redacted]（２－２）

「皆違って全部いい」

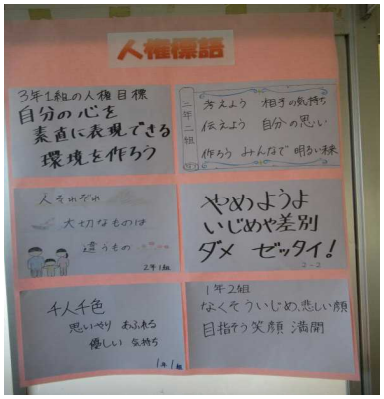
お客様に笑顔という最高のおしゃれを提供する美容室の毎日の様子、お母さんと様々なお客様との交流をとおして感じたこと、学んだことを発表しました。

[redacted]（３－１）

「性差別」

ダンス教室での新たな先生との出会い、その交流と、先生から過去の辛い体験談を聴き、人それぞれの違いこそが尊重されるべき人の個性と感じ、その考えを発表しました。

各学級の誓い



1－1　千人千色　思いやり　あふれる　優しい　気持ち
1－2　なくそういじめ　悲しい顔　目指そう笑顔満開
2－1　人それぞれ　大切なものは　違うもの
2－2　やめようよ　いじめ差別　ダメ　ゼッタイ！
3－1　自分の心を　素直に表現できる　環境をつくろう
3－2　考えよう 相手の気持ち 伝えよう 自分の思い 作ろう みんなで 明るい未来

生徒の振り返りシートより

人権週間の各クラスの標語づくりや、集会を経て、生徒皆さんに感想や考えたことを書いてもらいました。その中からいくつかを紹介します。

1年生

◎人権集会の作文発表を聞いて、心を広くもつことや、差別やいじめをなくそうと強く思った。また、思っているだけでなく、行動に移していきたい。人に優しい言葉がけをするなど、基本的なことも忘れずに過ごしたい。

◎見つめ直してみると、些細な言葉でも人を傷つけていることがあることを知った。言う前に相手の気持ちを考えて伝えたい。また、話を聞くことも大切だし、優しい言葉をかけることも大切だと思った。これからは、自分の言葉に責任をもち、人と関わっていきたい。

2年生

◎「気持ちの良いあいさつ」はどのようなあいさつか考えたが、ただ大きな声ではないと思った。一番は、相手に伝えることだと思うので、これからは気持ちをこめてあいさつをしたい。

◎人権集会の作文発表を聞いて、性差別は絶対にしたくないし、いじめは見つけたら止めたいと思った。「心で感じ取れる」と言っていたのが胸にささった。

◎あいさつを元気にすると、返事が返ってきて、自分も嬉しくなった。人権週間が終わっても続けたい。また、相手の気持ちを考えて行動していきたい。

3年生

◎この一週間で人権に対する思いが少し変わったと思う。「無自覚」ないじめは恐ろしいことに気付いた。だから、普段から言動に気をつけて落ち着いた生活を送りたい。「みんな違ってみんないい」を心に、お互いのことを思い合って、残りの数ヶ月の学校生活を楽しみたい。

◎人権作文の発表に共感した。小さい頃は男性と女性ははっきり分かれているものだと思っていたが、学校の授業でLGBTのことを知り、この考えを受け入れていった。どのような姿でも一人の人間として個性を尊重していくことを強く感じた。

おでんづくりに挑戦　特別支援学級では自分達で育てた大根を使って、おでんを作りました。心をこめて毎日世話をした大根は太くみずみずしく豊作です。皆で、役割を分担しました。大根や他の具材を切る人、昆布を結ぶ人、卵の皮をむく人、具材を一つ一つ整えて、調理しました。普段は、好んで昆布などを食べない生徒も、自分で調理したとなると、つい手が伸びて食べられたと、手作りならではの成果もあったようです。特別支援学級では体験をとおしての学びを進めています。

日だまり支援

作業を手伝ってくれたり、優しいあいさつや声かけをされたりすると、心の中が温かく、日だまりの中にいるような気持ちになります。先日、学年部会の際、椅子を並べている先生に気づいた２人の生徒が椅子を拭いてくれました。次の日、椅子を片付けていると、５人の生徒が運ぶのを手伝ってくれました。また、ある先生が石油を運んでいると、３人の生徒が運ぶのを代わってくれました。これら以外にも、生徒皆さんのちょっとした気配りやあいさつ、言葉で学校の雰囲気がポッカポカに温まっています。ありがとうございます。

終業式生徒代表の言葉

第２学期　終業式　生徒代表の言葉　皆、堂々と立派な発表でした【発表内容の要約：放送で発表】

1年1組 [redacted] さん　体育祭では、リレーと大縄跳びでクラスが一致団結した。合唱コンクールでは練習と改善を繰り返しさらにクラスの絆が深まった。勉強が難しくなっていいているので復習・予習を頑張りたい。

2年2組 [redacted] 君　テスト勉強の工夫をした。自学や参考書などで考えて取り組み１学期より成果がでた。体育祭ではコロナ禍の中、体育委員として企画運営を頑張った。合唱コンクールではクラスの絆がさらに深まった。

3年1組 [redacted] 君　体育祭では、３－１が勝利するために、クラスリーダーとしてメニューを考えたり大きな声で合図をしたりして頑張り最高の体育祭だった。受験、３年の締めくくり、全力投球で最高学年として頑張る。

※校歌斉唱は３年２組の[redacted]君が録音してくれたＣＤを放送しました。

２学期修業式の講話より　【要約】　スローペース、心にゆとりを

●12月の冷え込んだ朝、ある教室の黒板にこんなメッセージが書いてありました。

> **おはようございます。この間、コンビニに行ってレジの順番待ちをしていたら、前でお会計をしていたおじさんと店員さんの会話が聞こえてきました。２人は知り合いみたいで、おじさんが「ご主人は元気かい？」「早くマスクが取れるようになるといいね～」なんて言って世間話をしていたのですが、なんかいいな～と思ったんですよね。**

誰もいない教室。足音が甲高く響く、その静けさがより寒さを強調します。ただ、黒板の言葉は、不思議な温もりを放っていました。時々、コンビニに寄り、レジが混んでいたり、店員さんの胸に若葉マークや研修中の名札があったりすると、「遅いなあ。」なんて、心の中で呟いていることがあります。また、お客さんと店員さんが会計しながら話ていたら、イライラしてしまいます。この黒板の言葉は、いかに自分がゆとりのない人間だったかを教えてくれました。「なんかいいな」という感想から、人と人とのさりげない繋がりの大切さを思いました。●かつては、学校の近くに文具や駄菓子などを売っているお店がありました。軒先には色鮮やかなビニール縄跳びが吊され、その下には駄菓子やくじ、ガラスケースには、ノートや鉛筆、消しゴムが並べられていました。店のおじさんやおばさんは、気軽に声をかけてくれました。たしかに、「買うこと」が目的でありながら、ただそれだけではありませんでした。小銭をポケットに、お店に行って時間を過ごす、その空間にいることが一つの安心感であり繋がりであり、生活の一部だったのです。もっともっと昔には、水道がなく、みんなで同じ井戸から水を汲み洗濯をし生活をしていました。ですから、井戸の周りで近所の人が集まって話をする、これを「井戸端会議」といいますが、そんな交流が盛んでした。●時は流れて、全てのものが便利に、無駄のない、スピード感のある時代になりました。大型衣料品店では、買い物かごを置くだけで値段が表示されます。コンビニやスーパーでも、セルフレジが増えてきました。時間の節約、衛生面と時代のニーズに合っていてとても便利です。そんな今だからこそ、買い物に行き会計をする時、「ありがとう」というさりげない一言を添えてみてはどうでしょう。店に入る際、人と鉢合わせになったら、ドアを持った手を離さず、「どうぞ」と待ってあげてはどうでしょうか。かかる時間は、数秒です。時間は貴重なものですが、その数秒から得られる心の温かさは、冬の暖房を越えていると思います。また、近所の人にあいさつをしたら、さりげなく「寒いですね」とか「いい天気ですね」とか、添えられたら素敵です。あいさつプラスほんの一言が、地域の絆になります。皆さんが、地元をより身近に感じ、その温かさに触れながら新年を迎えることを願います。

帳（とばり）開（あ）け　凍（い）てつくほどに　澄（す）み渡（わた）る　目覚（め）ざめの街（まち）　現（あら）る富士（ふじ）の峰（みね）